

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 6 月 20 日現在

機関番号：37128

研究種目：基盤（C）

研究期間：2010 ～ 2012

課題番号：22592426

研究課題名（和文）看護実践力の向上に向けた基礎看護技術修得のための支援ツールの開発

研究課題名（英文）Development of Support Tools for Acquiring Basic Nursing Skills towards Improvement of Practical Nursing Competency

研究代表者

二重作清子（KIYOKO FUTAESAKU）

純真学園大学・保健医療学部・看護学科

研究者番号：70321221

研究成果の概要（和文）：本研究は、看護学生および新人看護師の看護実践力の向上に向けて、基礎看護技術を確実に修得するために、その支援ツールを開発し、有効性を検討することを目的とした。平成 22 年度は、基礎看護技術をリストアップし、支援ツールとして血圧測定および食事の援助のチェックリスト及び DVD を作成した。平成 23 年度は、看護学生 29 名に実際に活用してみたところ、支援ツールにより、不確実な知識や技術が修得できることがわかった。このことから、支援ツールは、看護実践力の向上に向けた取り組みとして効果をもたらすことが明らかになった。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this research was to develop support tools for reliably acquiring basic nursing skills towards improvement of practical nursing competency among nursing students and new nurses, and to assess the effectiveness of those support tools. In 2010, a list of basic nursing skills was drafted and a check list and DVD were prepared as support tools for measuring blood pressure and dietary assistance. In 2011, when 29 nursing students were allowed to actually use these support tools, they were determined to be able to acquire knowledge and skills for which they expressed uncertainty. On the basis of this finding, the support tools were clearly determined to be effective as means for improving practical nursing competency.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
平成 22 年度	1,600,000	480,000	2,080,000
平成 23 年度	800,000	240,000	1,040,000
平成 24 年度	800,000	240,000	1,040,000
年度			
年度			
総計	3,200,000	960,000	4,160,000

研究分野：看護技術

科研費の分科・細目：看護技術

キーワード：基礎看護技術，看護実践力

1. 研究開始当初の背景

近年、我が国において新人看護師の看護実践能力の低下が問題となっている。そのため

に複雑で多様な患者の看護を行うことに耐えていくことができず早期離職者が多い状況が報告されている。2004 年日本看護協会

「新卒看護職員の早期離職等実態調査」によれば、入職後1年以内の離職者の最も大きな理由は、「看護基礎教育終了時点の能力と看護現場で求める能力とのギャップが大きいことにある」。また、福井(2009)は、「臨床現場と看護基礎教育の乖離について、鶴田(2007)は、「基礎看護教育において看護技術習得の成果が得られにくい状況であると述べている。多くの新人看護師が、看護技術の裏づけが十分でないことを不安に思いつつ、就職している状況下、各病院では、新人看護師がやめない職場をどうつくるか、どう育てていくかが早急な課題であり、その取り組みが報告されている(柳橋 2007, 山地 2007)。

しかし、福井(2009)によれば、「病院側の新人看護師研修計画は施設によって差異があり、必ずしも十分とは言いがたい」。臨床現場によっては、入職後、看護技術を学ぶ機会がなく、必要な観察や援助ができていない状況もある。

教育側においても、看護実践能力の育成に向けた様々な取り組みが報告されている(田村 2003, 吉田 2009)が、「教育機関によって教育内容は異なり、看護実践の方法も看護用語も異なる(鶴田 2007)」。また、「実習場では、看護学生が実際に実践する機会が減少し、専門的技術を見学する機会すら少ない学生も存在している(桜井等, 2007)。

このように看護基礎教育における知識・技術を統合した看護実践支援教育は必ずしも実現していない。臨床実習においても田中(2009)が述べる状況と同様に、「手順にとらわれて、患者にどうすればよいか判断し、工夫することや応用力が抜けている」。また、「受持ち患者に計画した日常生活の援助方法がわからず、実習時間内に復習した学生もいる」。講義・演習においては、「技術の目的や方法、手順や留意事項も忘れ、積み重ねら

れない」、「講義・演習だけで練習しない」、「練習時間が取れない」、「取り組む姿勢は学生により差異がある」。これらの問題は、「①看護技術が多種・多様、②講義や演習以外に練習時間が取れない、③看護技術を修得する必要性が認識できない」に集約される。

学生の教育内容として、基礎看護学技術と看護問題解決能力が不可欠である(小泉, 2009)といわれるなか、まず、看護実践の基本である安全・安楽な基礎看護技術を確実に修得するための支援が必要である。そこで、その支援ツールとして、基礎看護学における看護技術修得支援ツールの開発をし、有効性を検討することを考えた。

2. 研究の目的

本研究は、看護学生および新人看護師の看護実践力の向上に向けて、基礎看護技術を確実に修得するために、その支援ツールを開発し、有効性を検討することを目的とした。

3. 研究の方法

(1) 平成22年度は、基礎看護技術をリストアップし、基礎看護技術支援ツール(看護技術チェックリスト・看護技術DVD)を開発することを目的とした。なお、ここでいう支援ツールは、看護技術チェックリストと看護技術DVDから構成されるものである(表1)。

表1. 看護技術支援ツール

<p>看護技術チェックリスト: 対象者への事前説明, 必要物品, 観察, 留意点, 必要物品の準備, 手順, 実施しての評価, 実施後の記録, 結果の報告など, 一連の事項を, 実施できるかを, カウントチェックする。</p> <p>看護技術DVD: 精選した看護技術の, 目的, 技術の概要, アセスメント, 留意点, 必要物品, 手順, 実施中・後の評価・観察・報告, などの一連を, 必要に応じていつでもみて学習ができるようにする。</p>

(2) 平成 23 年度は、支援ツールとして血圧測定に焦点をあて、実際に使用してもらい、その有効性を明らかにした。

①対象者

研究代表者の所属する機関あるいは協力機関で本研究の主旨を理解し、同意を得られた看護学生及び経験年数 1 年目の看護師(以下、新人看護師とする)。

②方法

平成 22 年度は、全ての臨床実習が終了した看護学生および新人看護師 10 名を対象に、面接によるインタビューを行った。面接内容は、「①看護実践するうえで最低限必要な基礎看護技術は何か、②基礎看護技術を修得するために必要な支援は何か」である。リストアップした基礎看護技術について看護技術修得チェックリストを作成した。平成 23 年度は、血圧測定 DVD を実際に看護学生 29 名に使用してもらい、DVD 使用前後の技術の修得状況をチェックリストで確認した。さらに、DVD 及びチェックリストを使用した場合の効果について、質問用紙に自由記述してもらった。チェックリストは、「知識の確認、実施前の確認事項、準備、実施(体位や巻き方などの共通事項・触診法・聴診法)、記録・報告」の計 37 項目について、「出来る・出来ない」の 2 件法で評価する。質問紙は、DVD 及びチェックリストを使用した結果、「看護技術を修得するうえで役立ったか、どのように役立ったか、役立たなかったか、それは何故か、看護技術修得支援ツールは有効であったか」について、A4 サイズの用紙に自由記述するものである。

③分析方法

面接調査及び自由記述については、対象者が語ったことや記述したことをデータとし、意味あるものを抽出し、類似のものをまとめてカテゴリー化した。看護技術チェックリス

トを用いての DVD 使用前後の看護技術の修得状況について T 検定を行った(有意水準 5%)。

④倫理的配慮

対象者に対して、調査によって得られたデータは、研究代表者の研究機関内で、鍵のかかる場所に保管し、研究目的以外には使用しないこと、個人が特定されないこと、途中辞退も可能であること、研究終了後は、シュレッター処理を行うことを記載した文書を配布し、口頭でも説明をした。なお、研究代表者の所属する関西看護医療大学研究倫理審査会の審査を受けた。また、研究代表者の勤務先変更に伴い、純真学園大学の生命倫理委員会の倫理審査を受けた。

(3) 平成 24 年度は、得られた結果を分析し、論文としてまとめた。

4. 研究成果

(1) 平成 22 年度における基礎看護技術支援ツールの開発

看護学生及び新人看護師が面接調査で語られた内容を分析した結果、「①看護実践するうえで最低限必要な基礎看護技術は何か」については、【血圧測定】【食事の援助】【排泄の援助】【体位変換】【移乗・移動】【入浴介助】【マヒがある患者の寝衣交換】【陰部洗浄】【アセスメント能力】【コミュニケーション技術】の 10 の看護技術と、看護実践するうえで最低限必要とした看護技術を説明する 20 のサブカテゴリーに分類できた。

【血圧測定】は、「学内と実際との違いによる戸惑い」「測定に時間を要したこと」「時間がかかることでの患者の負担」の 3 つのサブカテゴリーから、【食事の援助】は、「個別の患者に応じた援助の難しさ」「嚥下障害がある患者の援助の難しさ」「疾患との関連を理解する必要性」の 3 つのサブカテゴリー一

ら、【排泄の援助】は、「学内と実際との違いによる戸惑い」「一人で出来るかという不安」「清潔迄含めた援助の難しさ」の3つのサブカテゴリーから、【移乗・移動】は、「体動できない患者への援助の難しさ」「麻痺がある患者への援助の難しさ」「支えることの難しさ」の3つのサブカテゴリーから、【陰部洗浄】は、「技術不足で援助できないこと」「技術不足によりシーツを汚染」の2つのサブカテゴリーから、【アセスメント能力】は、「アセスメント内容がわからない」「コミュニケーション不足」「患者に適した看護計画不足」の3つのサブカテゴリーから、【コミュニケーション不足】は、「話かけるタイミングがつかめない」「一方的に聴くだけの関係」「沈黙による気まずさ」の3つのサブカテゴリーから構成された。

質問②の、「必要な支援は何か」では、【見学や演習の機会を増やすこと】【学内での演習や技術を確認する場】【いつでも練習できる環境作り】【技術を修得するための映像】の4つのカテゴリーと14のサブカテゴリーに分類できた。

【臨床を知る場の設定】は、「臨床と学校の必要物品の違い」「演習と実際との違い」の2つのサブカテゴリーから、【技術を修得する環境づくり】は、「見学や演習の機会を増やすこと」「学内で技術を確認する場」「いつでも練習できる環境作り」「技術を修得するための映像」の4つのサブカテゴリーから、【理論に結びつけた指導】は、「看護技術を理論で確認する支援」「患者の状況や行った援助の確認」「先輩看護師の体験を聴く機会」「患者の状況と行った援助の確認」の4つのサブカテゴリーから、【先輩看護師の体験を聴く】は、「看護師や教員の患者への援助の体験」から、【患者を理解するための場の設定】では、「患者の立場を考える機会」「患者へ援助の

体験」「体験後の関係性の変化」の3つのサブカテゴリーから構成された。

(2) 基礎看護学技術修得のための支援ツールの有効性

チェックリストを用いたDVD使用前後の技術修得状況を比較すると、できる項目は使用前が27項目から使用後が37項目へと変化した ($p < .01$)。項目別では、知識の確認および触診 ($p < .01$)、実施の共通事項ができるに変化した ($p < .05$)。これらを表3に示した。

表3. 支援ツール使用前後の比較

評価項目	使用前		使用后		P値
	平均	SD	平均	SD	
知識	12.8	0.47	30.6	0.28	0.0002*
確認	15	1.99	20.5	0.43	0.12
準備	22	1.98	26.4	0.12	0.15
共通	32.4	0.51	31.3	0.14	0.016*
触診	21.7	0.44	26.3	0.23	0.001*
聴診	24.5	0.49	27.1	0.13	3.26
記録報告	23.5	0.47	26.5	0.15	0.125

* $p < 0.05$ 有意差有

支援ツールの有効性についての自由記述では、学生全員が「DVDは役立った」と記述していた。さらに、記述内容を分析した結果、【復習の機会】【技術修得を通して自己に直面】【DVD作成に対する肯定的評価】【DVD使用の効果】の4つのカテゴリーと、11のサブカテゴリーに分類できた。

【復習の機会】は、「できない部分が明確化」「復習する必要性を再認識」の2つのサブカテゴリーから、【技術修得を通して自己に直面】は、「技術不足の自分に直面」「技術修得状況を再確認」の2つのサブカテゴリーから、【DVDに対する評価】は、「DVDで技術を修得できることを確認」「DVDを見た前後で技術を確認することの効果」「曖昧さが確実

にできるように変化」 「留意点を技術に反映」の4つのサブカテゴリーから、【技術を学ぶ機会に感謝】は、「自分の技術不足を学ぶ場」「充実した時間」「進んで学びたいと再確認」の3つのサブカテゴリーから構成された。

改善して欲しい内容は、【ナレーションの量やスピード】 【イラストの挿入】 【見やすい文字や色遣い】 【内容の構成】 の4つのカテゴリーと、8つのサブカテゴリーに分類できた。

【ナレーションの量やスピード】は、「聴きとり難さ」「説明部分の多さ」「声の単調さ」の3つのサブカテゴリーから、【イラストの挿入への提案】は、「楽しい雰囲気」のから、【見やすい文字や色遣い】は、「文字の大きさ」「画面の色との対比」の2つのサブカテゴリーから、【内容の構成】は、「ナレーション挿入の場」「技術と留意点の組み合わせ」の2つのサブカテゴリーから構成された。

以上、3年間を通して、看護実践能力の向上に向けた看護基礎技術修得支援ツールの開発に取り組んだ。看護実践するうえで最低限必要な基礎看護技術として作成した支援ツールのなかから、さらに血圧測定に焦点を絞り、実際に使用してもらい、チェックリストで前後の比較を行った。支援ツール使用前後で有意差がみられた項目は、「知識の確認、実施の項目の触診法・聴診法に共通する部分」であった。触診法は実施する頻度が聴診法と比較すると少ないため、手技を忘れやすく、自分で学習できる支援ツールで手技を確認でき、できるように変化したと考えられた。また、講義で理解できていなかった内容をDVDで繰り返し確認することで、学習が深まったと考えられた。学生は「DVDの使用やチェックリストで確認することにより技術を身につけることができる、留意点やできてない部分を確認できる」と記述していた。

チェックリストについても、「DVD使用前後に技術を確認することで修得状況及び変化がわかる、チェックリストで、何をどのように修得すればよいかポイントが明確になる」など記述していた。

これらのことから、支援ツールは有効であり、学生が不得手とする部分や曖昧な部分ほど、自己学習ができる支援ツールが必要であると考ええる。しかし、DVDにおいては、改善すべき点として、「ナレーションの量やスピード、見やすい文字や色遣い、内容の構成」などがあげられていた。今回作成したDVDは、撮影や編集等の一部分を業者に依頼したために、できあがった段階では修正が難しい状況にあった。今後さらに使用しやすいDVDにするためには、教員が一連の過程を担い対応することが必要であると考ええる。今回取り組んだ支援ツールの開発を契機として、今後、他の看護技術についても応用し、看護実践力の向上に向けた支援ツールを作成したいと考えている。これらは今後の課題である。

文献

- ・工藤秀子・浦田秀子・高島和歌子(2009): 新人看護師研修プログラムの実際と評価
- ・小泉仁子・日下和代・千葉由美他(2006): 特集臨床との連携で効果をあげる看護実践能力育成に向けた看護技術チェックリストの検討—看護技術と問題解決能力の統合をめざした東京医科歯科大学の取り組み, Vol.47.No.10, 884-891, 看護教育
- ・桜井礼子・藤内美保・伊東朋子(2007): 使える看護技術の教育法 看護技術修得プログラムの改善による実践力向上 総合看護学, Vol.32, No.3, 180-185, 看護展望
- ・清水恵子・村松照美・小林たつこ他(2008): 卒業に向けた実践力の養成】 「卒業時看護技術演習」の具体的展開と成果 Vol.33.No.13,

1241-1246, 看護展望

・田村由美・中田康夫・平野由美他(2003): 実践的思考能力としてのリフレクション能力育成のための指導の実際 リフレクティブジャーナルを活用して, Vol.44.No.6, 452-456, 看護教育

・鶴田恵子(2007): 新人看護師が育つ”環境をつくる, Vol.32.No.3, 12-15, 看護展望

・藤内美保, 安部恭子, 神田貴絵, 他(2003): 大学における看護基本技術に関する教育のあり方 看護者と在学生の実態調査から, Vol.44.No.9, 788-793, 看護教育

・日本看護協会中央ナースセンター(2004): 2004年「新卒看護職員の早期離職等実態調査」, 日本看護協会, 2004

・福井トシ子(2009): 看護基礎教育と新卒看護師初期の教育を連動させるための取り組み—私立医科大学協会病院看護部長会議研究班の調査結果から—, Vol.34.No.6, 20-25, 看護展望

・柳橋礼子・川名典子・佐藤エキ子(2007): 新人看護師の離職を防ぐオリエンテーションプログラム Vol.32.No.3, 112-117, 看護展望

・前田久代・奥野喜美子(2009): 看護基礎教育にもとめるもの—都立病院新人看護職員臨床研修の成果から— Vol.34.No.6, 35-41, 看護展望

・山地のぶ子(2009): 【新人看護師が辞めない職場と体制づくり】 効果的なプリセプターシップのための体制づくり 主任の役割と支援 Vol.32.No.3, 118-124, 看護展望

・吉田文子(2009): 専門分野 I: 基礎看護技術の教授方法の工夫, カリキュラム改正に対応した教育方法・1, Vol.50, No.3, 216-221, 看護教育

5. 主な発表論文等

(研究代表者, 研究分担者及び連携研究者に

は下線)

[雑誌論文] (計 1 件)

[学会発表] (計 2 件)

・二重作清子・山本洋子・石本祥子・犀川由紀子: 看護学生が認識する看護実践に必要な基礎看護技術と支援, 第 42 回日本看護学会学術集会 - 看護教育 - 抄録集 (愛媛), 査読有, p64, (2011).

・二重作清子・石本祥子・犀川由紀子・山本洋子: 基礎看護学技術修得に向けて作成した血圧測定 DVD の有効性, 第 32 回日本看護科学学会学術集会—抄録集 (東京), 査読有, p 385, (2012)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

二重作 清子 (FUTAESAKU KIYOKO)
純真学園大学・保健医療学部・教授
研究者番号: 70321221

(2) 研究分担者

石本祥子 (ISHIMOTO SACHIKO)
聖マリア学院大学・看護学部・助手
研究者番号: 30538583

犀川由起子 (SAIKAWA YUKIKO)
関西看護医療大学・看護学部・講師
研究者番号: 60556744